

令和 3 年 度 学 校 総 合 評 価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

主体的に学習を進め、自らの進路を切り拓いていく力を育てるとともに、学校行事や部活動を通して、豊かな人間性を育むことが本校の課題である。しかし、昨年に引き続き世界規模での新型コロナウイルス感染症の拡大により、海外研修や多くの学校行事が実施できなかったうえ、夏季休業期間の延長等があったため今年度も授業時間と質の確保を第一目標とした。

今年度はSSH事業2期目の中間評価を受けた。理数教育のさらなる充実を目指し、理数科学科の生徒だけではなく、人文社会科学科、普通科を含む生徒全員に対して「探究力」「科学的思考力」「自己発信力」を育成することが課題である。これを受け、具体的重点目標として5分野9項目の目標を掲げた。

「学力の向上」では、1人1台タブレットが完了したこともあり、ICTを活用した授業が増えた。さらに夏休みの延長および分散登校の際にはGoogle Classroomを使ったオンライン配信による課題の配布等を行うことで、生徒の学習意欲の維持を図ることができた。テストの見直しにおいては、アンケートにより各種テストを見直す意識が強くなった生徒は81%と目標に達したが(昨年度は86%)、できなかった分野の復習を学習計画に取り入れている生徒は68%(昨年度は70%)にとどまり、いずれも昨年度を下回った。しかし、3年生において校内模試後の解説授業がためになっていると感じている生徒は92%と例年通り高い水準を維持しており、学習活動のPDCAサイクルを確立した生徒も多い。

「進路意識の高揚と進路希望の実現」では、1年生の進路講演会は例年と同じ15分科会で行うことができ、満足度は約84%であった。また、単年度の企画として「富山の企業魅力体験ツアー」を普通科で実施し、就業を見据えた文理選択や大学・学部選定に役立てた。2年生では、大学探訪を行うことができなかったが、8月と12月の2度に分けて「東大生とオンラインで語る会」を実施し、約70名が参加した。生徒の満足度は、88%であった。進路希望の実現では、難関10大学と国公立医学部に出願した3年生は約53%であった。例年以上に第1志望をあきらめず、難関大学への進学を目指す生徒が多くなってきている。

「読書指導・体力の向上」では、図書館利用を促す広報刊行物の年間発行回数は12回以上の目標を掲げたが20回を超えた。ホームルームで実施する読書の時間も1・2年生の目標12時間に対し15時間を達成した。読書教養講座は、本校のALTが講師を務め、多くの生徒・教員が参加し、好評を博した。体力の向上においては、約87%の生徒が2年次で持久力の自己最高記録を更新した。生徒は、サーキットトレーニングを継続したことで効果が上がったことを自覚できた。

「学校行事・部活動の充実」では、体育大会・コーラスコンクールが中止となった。部活動は、感染症予防対策にできる限りの注意を払い、場所や計画を変更・工夫しながら行った。3年生を対象とした部活動の満足度は約96%であった。今後も感染予防をとりながら生徒のモチベーションが下がらないように続けていく。

「探究力・科学的思考力・自己発信力の育成」では、SSH事業における実習のうち、東大実習、能登臨海実習は中止したが、立山自然観察実習(日帰り)と富大薬学実習は実施できた。2年生の課題研究を探究活動と発表を2種類のループブックを用いて評価したが、レベル3に達成した生徒の割合が目標の80%を上回り94%であった。アメリカ研修やオーストラリア研修、中国東北育才学校訪問等の海外研修は実施できなかった。

今後とも、生徒・保護者・地域・社会の期待に応えるとともに、次年度からのスクールポリシーでも示している通り、「新しい社会を共創し、未来の世界と日本をリードしていく生徒を育成する」ために、「計画・実行・検証」の学校評価システムを確立し、充実した教育活動を展開していきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

来年度から実施される新教育課程においては科目数の増加がある中で、32単位で授業を編成しており、各教科概ね3年間での単位数が現行カリキュラムより減少している。この減少したカリキュラムの中でアクティブラーニングやICTを最大限に活用して、授業での指導内容の精査および生徒の主体的な学びの一層の促進を互見授業、教科別授業研究会で行っていく必要がある。

コロナ禍ではあるが、生徒の学力向上を目指すことはもちろん、学校行事や部活動の充実を継続して図り、健全な心身・優れた知性・豊かな情操を培い、民主的で自主性・創造性に満ちた人間の育成に努めていきたい。